

## ハイチにおける複合的危機に関するメッセージと提言

### 人道的状況

ハイチの一般市民は、治安の悪化、暴力、政治的不安定といった危機的状況に直面し続けており、サプライチェーン、輸送、生計や健康、教育、清潔な水、基本的な衛生設備といった不可欠なサービスへのアクセスが困難な状況にある。多くの人権侵害が報告され続けており、前例のないレベルで誘拐、殺害、性暴力やジェンダーに基づく暴力(SGBV: Sexual and Gender based Violence)が発生している。

2023年には前年の2倍以上の約4,700人が殺害され、約2,500人が誘拐された<sup>1</sup>。全人口の半数にあたる約497万人が急性食料不安に直面しており、世界食糧計画(WFP)が定める「総合的食料安全保障レベル分類(IPC)」のうち、164万人が「人道的危機(IPC フェーズ4)」に、332万人が急性食料不安(IPC フェーズ3)にある<sup>2</sup>。また、2024年11月には、5歳未満の子ども約27万7,000人が急性栄養不良を患うと推定されている<sup>3</sup>。国内避難民(IDPs: Internally Displaced Persons)の数は36万2000人を超え、最近の暴力の増加により、新たに1万5000人が避難し、その3人に1人(32%)が子どもである<sup>4</sup>。更に、これまでに29万8,621人がハイチに強制送還されており、その大半はドミニカ共和国(82%)と米国(11%)からである<sup>5</sup>。首都のポルトープランスは、依然として組織的犯罪集団(OCG: organized criminal group)の支配下に置かれている<sup>6</sup>。

ハイチの2024年人道対応計画(HRP: Humanitarian Response Plan)によると、人道支援を必要としている人は約550万人で、そのうち48%が子ども、51%が女性と女の子である<sup>7</sup>。ハイチの複合的危機は、同地域で3番目に大きな人道的緊急事態だが、その対応計画は深刻な資金不足に陥っており、2023年には、HRP要件の33%しかカバーできなかった。2024年のHRPには6億7380万米ドルが必要である。

<sup>1</sup> Human Rights Watch (HRW). Haiti: Escalating Violence Threatens Millions, 2024.

<sup>2</sup> IPC Haiti Report, March-June 2024.

<sup>3</sup> IPC Haiti Report, December 2023-November 2024.

<sup>4</sup> OIM, Displacement Tracking Matrix, March 11, 2024.

<sup>5</sup> OIM, Statistics of deported Haitians since 2021, 2024.

<sup>6</sup> OCHA, Situation Report, 2023.

<sup>7</sup> OCHA, Humanitarian Response Plan (HRP), 2024.



## プラン・インターナショナルの対応

プラン・インターナショナルは、ハイチ市民の最も深刻な人道的ニーズに応え、特に子どもや思春期の若者、国内避難民(IDPs)のための基本的なサービスへのアクセスを確保するために活動している。プランはこれまでに、ハイチの南東部、北東部、アルティボニット県において、深刻な治安不安と暴力、人道的アクセスの確保が困難な中、救命プログラムの規模の拡大に成功した。

私たちは、危機の影響を受けた家族への清潔で安全な水の供給とアクセスを改善し、脆弱な世帯に基本的な食料と栄養のニーズを満たすための現金給付を行い、コレラの発生を予防し対応するための衛生キットを供給し、またハイチの人びと、特に子どもと思春期の女の子のために、性と生殖に関する健康と権利の啓発、紹介、事例管理といった、重要な保護活動を展開してきた。

プラン・インターナショナル・ハイチの新たな資金はすべて、ポルトープランス首都圏、特に武器を用いた暴力の増加に伴い、かなりの数のインフォーマルな国内避難民キャンプが設置されているトゥルジョー市における人道支援の拡大に充てられる。レクリエーションや心理社会的支援活動、家族合流を含む事例の早期発見と紹介を促進するため、移動式 CPIE (Child protection in emergencies、緊急時における子どもの保護) サービス・ユニットの設立が計画されている。対象となるのは、大人に付き添われていない子どもや主たる養育者と離ればなれになった子ども(UASC: Unaccompanied and Separated Children)、SGBV のサバイバー、強制避難をさせられた子どもだ。

## 主要メッセージ

ハイチの複合的な危機は衰えることなく続いており、市民が被る困窮と暴力のレベルは日に日に高まり続けている。プラン・インターナショナルは、資金不足が深刻なハイチにおける人道的・保護的危機が長期化していることを深く憂慮している。民間人は、武装集団による組織的な支配、強制、人権侵害に直面しており、高いインフレ率、構造的貧困、食料不足、疾病の発生と相まって、彼らの継続的な苦しみの一因となっている。危機は、紛争における子どもに対する 6 つの重大な侵害<sup>8</sup>の中でも、特に国内避難、SGBV、強制的な徴用のリスクの高まりにさらされている子どもと思春期の女の子に、不均衡な影響を及ぼしている。人道的アクセスが制限され、深刻な治安上のリスクがあるにもかかわらず、プラン・インターナショナルは、この暴力と恐怖の情勢に見舞われたハイチ人、特に最も脆弱な立場にある子ども、ユース、思春期の女の子を支援することへの決意を改めて表明し、国際社会に対し、支援を強化・拡大するよう求める。

<sup>8</sup> 国連は、ハイチにおける殺害や傷害、子どもの徴用など、子どもに対する重大な侵害の監視と検証を試みている。ハイチは現在、「子どもと武力紛争(Children And Armed Conflict, CAAC)」に指定されている。CACC では、2005 年に国連安全保障理事会が採択した、(紛争下における)6 つの形態の子どもの権利の重大な侵害行為を監視し報告する仕組みと、作業部会の設置を求めた安保理決議 1612 号に基づくもので、殺傷、誘拐、学校や病院への襲撃、性的暴行、徴兵、紛争地域という人道支援活動に対する妨害の 6 つの側面における『監視と報告』システムの構築を模索・検証している。

## テーマ別メッセージと提言

### 保護

プラン・インターナショナルは、ハイチの子どもやユース、特に国内避難民となった子どもたちや、UASC の権利、保護、統合性に対する深刻な侵害を憂慮している。思春期の女の子は、早期妊娠や早すぎる強制された結婚など、高レベルの SGBV に直面し、男の子は武装グループに強制的に徴用される危険にさらされている。

### 性とジェンダーに基づく暴力(SGBV)に関する提言

- 地方自治体、サービス提供者、子どもの保護に関わるアクターの能力を向上させることで、SGBV 事例の管理と紹介を含め、子どもの保護事件に対する包括的で質の高い対応を提供すること。
- 避難民の女性と女の子を性的搾取や虐待のリスクから守るため、既存の啓発プログラムを拡充させること。
- 地元の女性組織が運営するジェンダーに基づく暴力(GBV)シェルターや事例相談センターへの支援を強化し、国内避難民を含めコミュニティに SGBV 防止サービスを提供し続けられるようにすること。
- 情報および支援プログラムの適切な普及を確保し、コミュニティからのフィードバックを求めため、フィードバック・メカニズムとコミュニティとの双方向コミュニケーションを強化すること。

### 補足データ

- プラン・インターナショナル・ハイチが実施した聞き取り調査では、レイプ、早すぎる結婚、資源の剥奪が、主に女の子や思春期の若者が直面する SGBV の主な類型として挙げられた。
- 一部の女の子は、個人的または家族のニーズを満たすため、お金を稼ぐために、性的搾取や虐待を受けざるを得ず、その結果、早期妊娠、性暴力、中途退学を余儀なくされていた。また、13～17歳の女の子は、両親が食事や教育、更には月経衛生などの基本的なニーズを満たすことができないため、しばしば早すぎる、違法な結婚を、時には大人と結婚させられていた。

### 大人に付き添われていない子どもや主たる養育者と離ればなれになった子ども(UASC)および武装集団に関わる子どもたちに関する提言

- 国内避難民の家族および/または避難のリスクにさらされている家族が、いかなる差別も受けることなく、自治体、サービス提供者、子どもの保護団体が提供するプログラムやサービスを利用できるようにすることで、彼らへの支援を強化すること。
- コミュニティ、政府機関、パートナー団体と緊密に協力し、UASC の家族合流のための明確かつ効果的な手続きを定め、その過程で彼らの安全と幸福を確保すること。
- 教育、保健ケア、心理社会的支援、法的支援へのアクセスを含め、UASC と、OCG による徴用の

危険にさらされている子どもへの支援サービスを強化すること。これには、将来起こりうる事例を特定し予防するための、コミュニティベースのアプローチの実施も含まれる。

#### 補足データ

- アルティボニット県でプラン・インターナショナル・ハイチが実施した様々なフォーカス・グループ・ディスカッション(FGD: Focus Group Discussion)<sup>9</sup>では、UASC の事例がいくつか挙げられた。このような状況の主な原因は、バス・アルティボニットとポルトープランスにおけるギャングの暴力から逃れてきた家族の移住と関連している。
- ある情報提供者によると、アルティボニット県には現在、1,500 人超の離散した子どもがおり、いくつかの保護施設で家族との再会を待っている。
- 主要情報提供者の半数以上が、UASC を扱う機関やサービス、NGO の存在も、こうした子どもたちの再統合手続きも知らないと明かしている。
- 武装集団に関与している、あるいは関与するおそれのある子どもの事例を回避し、それに対応することを目的としたサービスを提供している人道支援組織や国家機関はないと報告されている。
- 2023 年 6 月以来、子どもと武力紛争に関する事務総長特別代表(CAAG)は、子どもの権利に対する重大な侵害の監視と報告を行っており、収集された情報からは、子どもの権利に対する侵害が増加していることがわかる。

#### 心理的応急処置(PFA: Psychological First Aid)とメンタルヘルスと心理社会的支援(MHPSS: Mental Health and Psychosocial Support: MHPSS)に関する提言

- 被害を受けた人びと、特に暴力、強制移住、SGBV などの被害を受けた子ども、思春期の若者、女性を対象に、PFA や MHPSS サービスなどの専門的な保健サービスを提供できる立ち寄りセンターの運営を支援する。
- 村の貯蓄貸付組合(VSLA: village savings and loan associations)の設立などのコミュニティ開発活動を通じて、包括的な社会支援システムを育成する。このシステムは、子どもや思春期の若者を養育する保護者のレジリエンスを促進し、同時に世帯の所得創出と経済的包摂を促進することができる。

#### 補足データ

- プラン・インターナショナル・ハイチの調査によれば、保護者は深い悲しみと自責の念に駆られており、経済的な制約がそれをさらに悪化させている。食料不足は、親や保護者のストレスや暴力的な行動を増加させる要因として注目されている。

---

<sup>9</sup> フィールドワークにおける情報収集手段の一つで、ある特定のテーマに関して少人数(通常 6~8 人)のグループに対してインタビューを行う。



## 食料安全保障

プラン・インターナショナルは、民間人が家計を支える上で直面する経済的困窮と課題を認識している。この経済苦境は、家族の収入の足しになるよう働かざるを得ない子どもや思春期の若者の幸福と発達に直接的な影響を及ぼしている。プラン・インターナショナルは、食料と引き換えにユース女性や思春期の女の子が性的搾取や虐待を受ける事例に重大な懸念を抱いている。

### 食料安全保障に関する提言

- 食料生産に必要な資源の共有や土地へのアクセスを可能にするコミュニティ主導の設計と実施を支援する。これにより、人びとの自給率を向上させ、輸入品への依存を減らし、コミュニティ内でより強靱で持続可能な食料生態系を育成することができるようにすること。
- 弱者や被害を受けた家族が当面のニーズを満たすことができるよう、キャッシュとバウチャー給付 (CVA: Cash and Voucher Assistance) を継続する一方、生計回復など長期的な解決策に投資する。持続可能な支援を保証するため、家庭菜園による食料確保や生計スキルの多様化に重点を置き、能力開発活動で資金援助を補完すること。
- 食料安全保障を改善するために利用できる資源やプログラムをコミュニティに周知するための啓発キャンペーンを実施すること。様々な情報伝達手段やコミュニティに根ざしたアプローチを活用し、広範囲での情報伝達と理解を確保すること。
- 子どもたちが栄養価の高い食事を食べられるようにするため、学校給食プログラムなど、部門横断的なプログラムを実施し、その拡大を支援する。プログラムの有効性を高め、十分にサービスが行き届いていない地域に手を差し伸べ、参加者を増やすための戦略を実施すること。ステークホルダーや地方自治体との協力により、物流上の課題を克服し、学校給食の取り組みが子どもの栄養と全体的な幸福に与える影響を最大化すること。

### 補足データ

- プラン・インターナショナル・ハイチの評価によると、家庭で最もよく使われた対処法は、子どもに十分な食料を確保するために大人の食料消費を制限することであり、次いで世帯員全員に食料を均等に分配することであった。
- また、プラン・インターナショナル・ハイチは、世帯は家族や友人から少なくとも週に3回は食料を借りており、丸一日食料がないことも何度かあったと記録している。
- プラン・インターナショナル・ハイチはまた、家庭での食料不安の広がりから、学校の食堂や給食プログラムを望む子どもや思春期の若者の証言を集め、栄養に関する基本的なニーズに対応する教育機関の役割を強調した。

## 教育

プラン・インターナショナルは、ハイチにおける未就学の子どもや思春期の若者の割合の高さ、不登校、欠席率、中途退学率の高さを危惧している。国内避難民を含めすべての子どもと思春期の若者の教育へのアクセスと継続性を改善するための短縮教育プログラム(accelerated education programmes)の実施と、彼らがさらされている保護と食料不安のリスクを軽減するマルチセクター・アプローチの統合を求める。

### 教育への提言

- 子どもの就学を妨げる経済的、保護的、食料不安の制約に対処するマルチセクター・アプローチによる短縮教育プログラムを、さらなる障壁に直面している国内避難民の子どもに特に重点を置いて実施すること。
- 学習障害、受け入れた学校の生徒の学力低下、避難民生徒の慢性的な中途退学に対処するため、短縮教育プログラムを確立すること。
- 子どもたちが学校を中途退学するリスクを軽減し、正式な教育制度への統合を確実にするために、キャッチアップ・プログラムなどの既存の代替学習機会を強化し、遠隔学習などのその他の機会を設けること。
- インクルーシブ教育における教師、保護者、介護者の研修を支援すること。

### 補足データ

- プラン・インターナショナル・ハイチの聞き取り調査によると、強制移住と貧困の結果、家庭の資本が減少しているため、保護者は子どもを学校に通わせることができずにいる。
- 聞き取り調査に協力した回答者は、教育支援プログラムへの参加を強く希望しており、学用品、制服、靴、学費といった必須教育資源を利用するための支援が非常に必要であることを強調している。
- アルティボニット県の FGD 参加者が共有した教育を受けるための障壁の中で、以下が際立っていた。親または保護者の失業、食料不足、早期就労、性的虐待、心理的トラウマ、GBV、暴行。これらの障壁のうち、4 つが保護リスクに関連していることは重要であり、これは選択された地域における教育へのアクセスと保護状況との主な相関関係を表している。

## 多国籍軍の展開

ハイチに国際軍が派遣されることになった場合、プラン・インターナショナルは、人道支援に携わる国際 NGO として、活動を続け、ハイチのすべての治安部隊が国際人道法に基づく義務を尊重し、人権を尊重し、民間人の保護を強化し、GBV、性的搾取、虐待の防止について訓練を受けることを求める。また、いかなる多国籍軍であれ、人道支援アクターが支援を必要とする人びとに対し、あらゆる人々が人道的支援にアクセスできるようにすることを求める。

## 人道アクセス

ハイチにおける人道危機への対応は、人道アクセスに対する厳しい制限に直面している。ポルトープランス首都圏の 8 割は OCG が支配しており、最近では、アルティボニテなど、深刻な構造的ニーズを抱える他の県にも支配を拡大しつつある。2024 年 2 月 29 日以降、港や全国で人道アクセスを妨げる事件が 400 件以上も報告されている。アクセスの制約は、ポルトープランス首都圏の空港、学校、医療施設の閉鎖と関連している。ハイチには 100 を超える人道支援団体が存在するが、暴力の脅威により、継続的なニーズに対応するために必要な場所やレベルで対応することができない。封鎖や窃盗事件など、人道アクセスに対するその他の制約も、救援活動に影響を及ぼしており、物資や人的資源を輸送する唯一の手段は空路となっている。

## 関与と調整

国連安全保障理事会理事国、国連加盟国、地域組織、ドナー・コミュニティ、その他の関連アクターと協調した外交と関与を継続し、ハイチの人道状況の深刻さを報告するとともに、この危機が必要な注目と政治的・財政的支援を確実に受けられるようにしなければならない。人道支援活動は、危機の根本的な原因に効果的に対処し、特にハリケーンの時期や新たな感染症の発生を考慮し、人々の対応能力を強化するために、開発関係者の努力によって明確にされ、補完されなければならない。ネクサスとジェンダーに基づくアプローチは、引き続き推進され、すべてのステークホルダーに「見える化」されるべきである。

## 行動への呼びかけ

### ハイチで激化する集団暴力に関与するすべての関係者たちへ

- 私たちは、民間人を危険にさらし、その苦しみを増大させる暴力と無差別攻撃を直ちに停止するよう求める。プラン・インターナショナルは、紛争における子どもたちに対するあらゆる重大な侵害、すなわち、徴用と利用、殺害と傷害、レイプやその他の性的暴力、学校や病院への攻撃、誘拐、人道アクセスの拒否を非難する。
- 支援の規模を拡大し、迅速かつ効果的な提供を確保するため、最も被害を受けたコミュニティへの継続的かつ安全なアクセスを求める。市民への人道的アクセスを可能にすることは、国際人道法上の義務である。
- 私たちは、特に国内避難民である子どもや若者、最近の暴力によって家族を失った子どもや若者、そして SGBV のリスクが高まっている女の子の保護を優先し、彼らの基本的なニーズが満たされ、安全な水、医療、心理社会的支援への迅速かつ安全なアクセスを含め、彼らが必要とする人道支援を受けられるようにすることを求める。
- 私たちは、同国の法と秩序を回復し、再確立するための外交努力を継続し、強化するよう求める。

人命を救い、民間人、特に子どもや思春期の女の子、女性など最も弱い立場にある人々を守るために、緊急かつ有意義な行動が必要である。

- 私たちは、人道援助団体、ドナー国政府代表、そして現場のコミュニティを積極的に支援し、人道的対応を支えている国内の市民社会グループとの対話と調整体制を維持するよう呼びかける。

#### 各国政府および国際ドナー・コミュニティに対して

- 私たちは、550万人(うち48%は子ども)のニーズに対応するため、2024年までに6億7380万ドルを必要とするハイチ人道対応計画(HRP)への資金を増やすよう求める。
- 私たちは、年齢とジェンダーを考慮したアプローチを通じて、新たな資金を優先的に配分し、子どもや若者グループの保護とニーズに優先順位をつけ、女の子や若い女性が直面する特別なニーズに特別な注意を払うよう呼びかける。
- 私たちは、高インフレ、為替レートの変動、運営コストの増加、燃料費などがプログラムの実施と質に与える影響を考慮し、ドナー・コミュニティに対し、資金拠出を増やし、多様化するよう求める。
- 私たちは、国連安全保障理事会に対し、国連ハイチ統合事務所への早急な支援、国連人道問題調整事務所(OCHA)を中心とする人道的調整、CARICOM(カリコム、カリブ共同体 Caribbean Community)といった地域対話プラットフォームなど、危機の当事者との有意義な外交を展開することにより、ハイチ市民を支援する努力を強化するよう求める。最近の大規模な暴力行為を終わらせるためには、自由で公正な立法選挙と大統領選挙を、女性の完全かつ平等で有意義かつ安全な参加と、ユースの参加を可能にする平和的な移行経路を確立することが必要である。

#### より広範な人道コミュニティ、国連援助機関、市民社会組織へ

- 私たちは、国際人道法とその原則の下で活動する人道援助アクティビストの保護と同様に、ハイチ市民とそのコミュニティの人道アクセスと保護を改善するための努力を明確にし続けることを求める。
- 私たちは、女性と思春期の女の子を、SGBV、性的搾取、強制移住を含むあらゆる形態の暴力から守るため、包摂的でジェンダーを意識したアプローチを、彼女たちへの対応プログラムに組み込むよう求める。
- 私たちは、教育と統合された子どもの保護への介入が、対応計画における優先的な行動として含まれるようにすることを求める。すべての学齢期の子どもに、学習者中心の教育・学習アプローチと子どもの保護サービスへの適切な紹介を通じて、質の高いインクルーシブ教育への継続的なアクセスと子どもの心理社会的ニーズを支援するために、支援機関は人道評価に子どもの保護と教育を含めることを体系的に強化すべきである。